

1. 科目名 (単位数)	日本語学習とマルチメディア (2 単位)	3. 科目番号	EIJP2361
2. 授業担当教員	里吉竜一		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係	演習課題に取り組めるためにインターネットに接続できるノートPC (MacBook推奨) を用意できること。		
7. 講義概要	古くから視聴覚教材は語学学習に有効な教材として使われてきた。近年のコンピュータ環境の進歩により、マルチメディア、インターネットを利用した高度な学習システムやサービスの一般利用が可能となった。このような教材を扱う技術や知識を得ることは語学学習者・教育者にとって重要である。本講義では、マルチメディア教材の有効性について学習し、IT を用いた日本語学習教材について演習によって操作方法などを修得する。また、日本語教育に必要なマルチメディア教材について分析・検討する。		
8. 学習目標	日本語学習にマルチメディアがどのように関係するかを知り、その効果的な利用方法について学ぶ。講義、演習を通して、IT を用いた日本語学習コンテンツに関する基礎的な知識や操作方法を修得する。日本語教育の実践に向けた教材の作成技術を習得する。		
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	教科書の各章を割り当て、発表レジメをまとめて授業で発表及びディスカッションを行うという、アクティブ・ラーニングを通じて実社会で通用する周りの人と協力し合う能力や自ら進んで学ぶ能力を身に付けることができます。最終課題は、学習した要点を整理し、それらに対する自分の意見及び試作品を最終課題として発表して提出します。 ・レポート課題 (1 回) ・最終課題 (1 回)		
10. 教科書・参考書・教材	<ul style="list-style-type: none"> 教科書：横溝紳一郎・山田智久『日本語教師のためのアクティブ・ラーニング』くろしお出版、2021。 副教材：入江祐也『YouTube 動画編集入門』技術評論社、2022。 ：相澤裕介『Canva でデザイン作成』カットシステム、2024。 ：イーディーエル株式会社『Google for Education』技術評論社、2021。 参考書：講義の中で適宜紹介します 		
11. 成績評価の規準と評定の方法	○成績評価の規準 1. マルチメディア技術を用いた日本語学習コンテンツに関する知識を得る。 2. IT を用いた日本語学習コンテンツに関する操作方法を修得する。 ○評定の方法 [授業への積極的参加度、日常の受講態度、課題等を総合して評価する] 1. 授業への積極的参加、受講態度 30% 2. 授業ごとに課されるレポートや課題 70%		
12. 受講生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 正解を事前に設定できない問題を科学的な根拠に基づいて解決し、生涯にわたって自ら学び続けられる素養を身に付けることができます。 Society5.0 と GIGA スクール構想に対応した授業を設計するので各自パーソナルデバイス (スマホかタブレット) を準備してください。 日本語学習においてもアクティブ・ラーニングを実現するためにマルチメディアを活用できる素養を身に付けることができます。 質問はいつでも気軽にしてください。 欠席、遅刻、早退をする場合は連絡してください。 		
13. オフィスアワー	・面談や補講の希望者は事前にメール等で連絡してください。詳細は授業で通知します。		
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第1回	春期イントロダクション I アクティブ・ラーニングを実現するため授業改善、マルチメディアの経験値に関するアンケート、最終課題、教科書の「はじめに」を確認してレポート課題を割り当て春期講義の導入とします。	事前学習	はしがきを読んでおく
		事後学習	発表レジメの書き方や発表の方法等について理解した上で、自分のレポート課題の読解、資料収集、レジメ作成や最終課題の準備を始める
第2回	調査発表・ディスカッション (1) 第1章 アクティブ・ラーニングとは何か	事前学習	教科書 pp.1~17 を読んで要旨をドキュメントファイルにまとめて提出しておく
		事後学習	発表とディスカッションをもとに要点をまとめる
第3回	調査発表・ディスカッション (2) 第2章 アクティブ・ラーニングの特徴_その1	事前学習	教科書 pp.20~31 を読んで要旨をドキュメントファイルにまとめて提出しておく
		事後学習	発表とディスカッションをもとに要点をまとめる
第4回	調査発表・ディスカッション (3) 第2章 アクティブ・ラーニングの特徴_その2	事前学習	教科書 pp.32~42 を読んで要旨をドキュメントファイルにまとめて提出しておく
		事後学習	発表とディスカッションをもとに要点をまとめる
第5回	調査発表・ディスカッション (4) 第3章 アクティブ・ラーニングを実現するための視点	事前学習	教科書 pp.44~54 を読んで要旨をドキュメントファイルにまとめて提出しておく
		事後学習	発表とディスカッションをもとに要点をまとめる

			とめる
第6回	ICTで教室を変える(1) 第5章 アクティブ・ラーニングの視点での授業改善	事前学習	教科書 pp.175～280 を読んでおく。「Google for Education」について予習しておく
		事後学習	実習の内容を復習する
第7回	ICTで教室を変える(2) 第5章 アクティブ・ラーニングの視点での授業改善	事前学習	教科書 pp.175～280 を読んでおく。「YouTube」動画編集について予習しておく
		事後学習	実習の内容を復習する
第8回	ICTで教室を変える(3) 第5章 アクティブ・ラーニングの視点での授業改善	事前学習	教科書 pp.175～280 を読んでおく。「YouTube」動画編集について予習しておく
		事後学習	実習の内容を復習する
第9回	ICTで教室を変える(4) 第5章 アクティブ・ラーニングの視点での授業改善	事前学習	教科書 pp.175～280 を読んでおく。画像生成AI「Canva」について予習しておく
		事後学習	実習の内容を復習する
第10回	調査発表・ディスカッション(5) 日本語学習支援教材を紹介して授業を設計する。	事前学習	紹介する日本語学習支援教材の要旨をドキュメントファイルにまとめて提出しておく
		事後学習	参考になった日本語学習支援教材をチェックしておく
第11回	日本語学習教材作成ソフトの活用(1) 日本語学習教材作成ソフトの操作方法の復習	事前学習	PowerPoint等の操作方法の復習をしておく
		事後学習	参考になったマルチメディア学習支援教材作成ソフトをチェックしておく
第12回	日本語学習教材作成ソフトの活用(2) 日本語学習教材作成ソフトの操作方法の復習	事前学習	Webページ作成ソフト、YouTube等の操作方法の復習をしておく
		事後学習	参考になったマルチメディア学習支援教材作成ソフトをチェックしておく
第13回	最終課題作成・提出 これまでに学習したことを活用して最終課題を作成するために、「テーマ」「作成条件」「評価規準」を確認して評価方法、評価システム、教育的価値等を講義します。	事前学習	これまでの授業内容を復習しておく
		事後学習	諸条件を確認して最終課題を提出する
第14回	最終課題発表 所定の場所に最終課題を提出して発表します。	事前学習	前回の授業内容の復習をしておく
		事後学習	「評価規準」を確認して自己評価及び相互評価の教育的価値を考える
第15回	総合演習：自己評価と相互評価 学生自身が他者の作品を評価するのと同じように客観的に自己の成果物も評価する実践を行います。自己の内面に向かう自己教育力の醸成を目的とします。	事前学習	最終課題を客観的に評価する意義を考えておく
		事後学習	どうしたら客観的な自己評価ができるようになるかについての考察を深める